

世界に誇れる、ものづくり

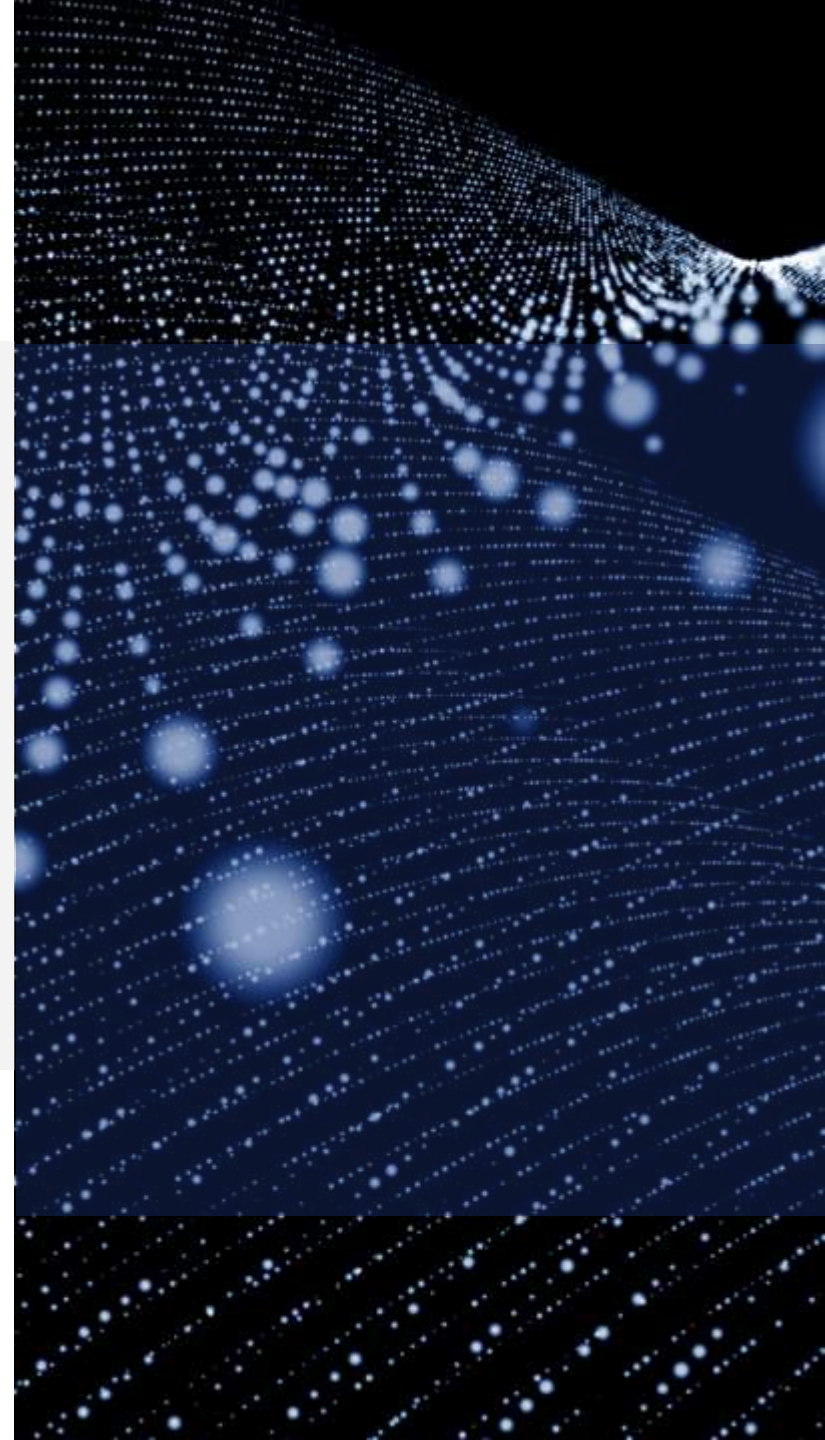
2024年12月期第1四半期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

湖北工業株式会社
2024年5月9日

目次

I . 2024年12月期1Q 決算概況	P. 2
II . セグメント別の状況	P. 12
III . 参考情報	P. 30



I. 2024年12月期1Q 決算概況

2024年12月期(1Q)のハイライト

主力の2事業ともに市場の調整が終了して回復傾向となり、売上・利益が計画に対して上振れで着地

リード端子事業は自動車向けの一部品種の受注急増もあり、前年同期比3.5%増収（前四半期比では6.0%の増収）

光部品・デバイス事業は売上は前年同期比10.4%の減収となったものの、海底ケーブル市場における投資再開により前四半期比では14.4%の増収となった

● マクロ環境

- 世界経済は、アフターコロナの流れの中、回復傾向を辿るも先行きに対しての懸念材料が散見
- 中東情勢の不安定化、エネルギー価格の高騰等による物価上昇、中国での不動産市場の停滞懸念など
- 国内経済は、円安が進行する中、雇用や所得環境が改善し、個人消費にも明るさが見え始めた

● 事業環境

- 自動車用エレクトロニクス市場では、一部の品種が回復傾向を示すなど、在庫調整の進展に伴う下げ止まりの兆候
- PCをはじめとする情報通信機器市場などは、厳しい状況が続く
- 海底ケーブル市場向は、GAFAM等の投資再開に伴い、需要の先行き見通しが改善、受注が回復傾向

● 業績(1Q)

- 売上は前年同期比3.1%（△107百万円）の減収だが、前四半期比では9.5%（296百万円）の増収
- 営業利益については、在庫減少の影響もあり、前年同期比24.9%（△210百万円）の減益、前四半期比22.8%（+118百万円）の増益

損益計算書(1Q)の概要

前年同期比ではマイナス成長だが、前四半期からは回復傾向

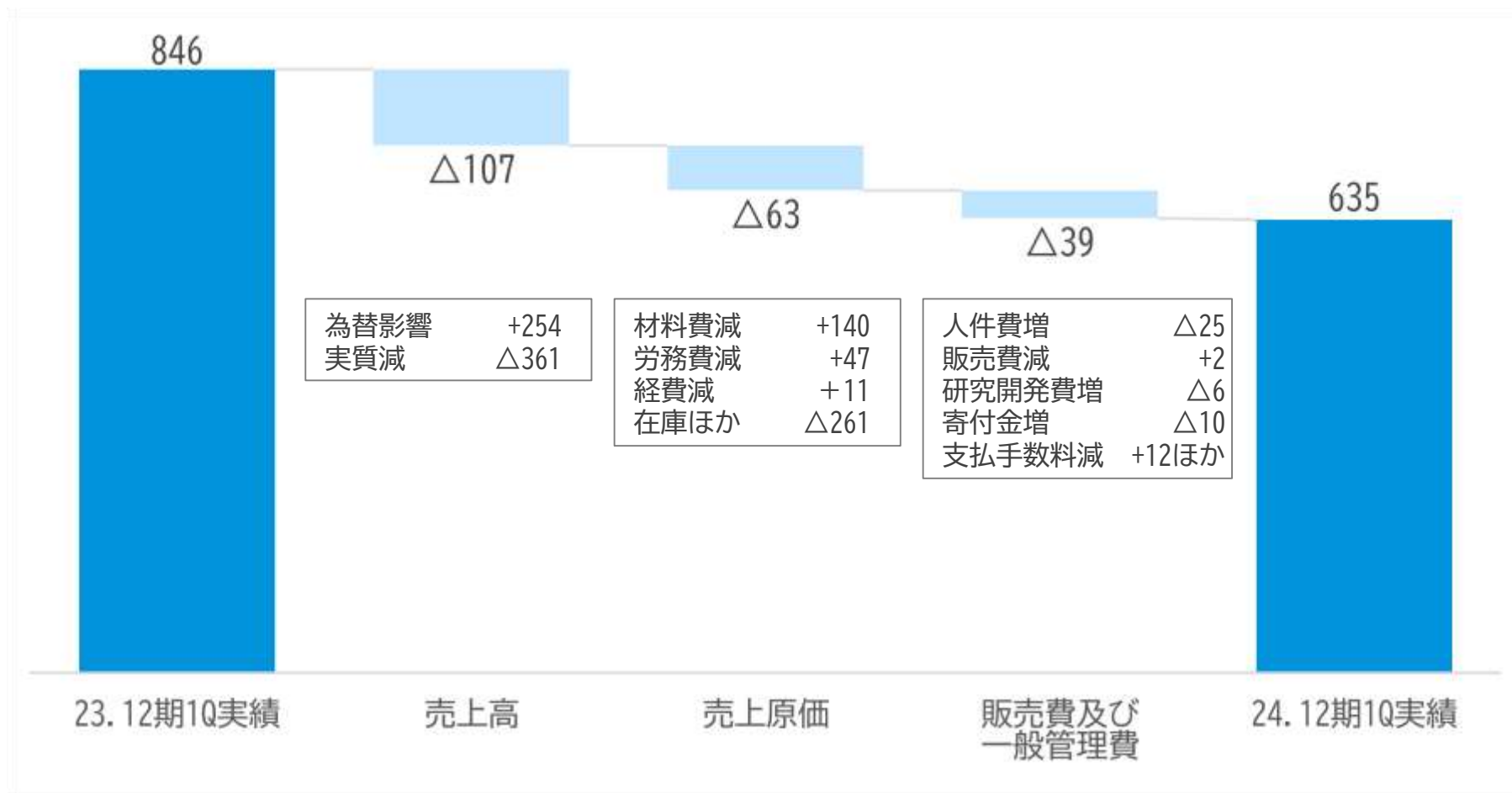
(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期			2023年12月期		
	1Q (1月-3月)	1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比	4Q (10月-12月)	対前四半期 増減	前四半期比
売上高	3,521	3,413	△107	△3.1%	3,117	+296	+9.5%
リード端子事業	1,864	1,929	+64	+3.5%	1,819	+109	+6.0%
光部品・デバイス事業	1,656	1,484	△172	△10.4%	1,297	+187	+14.4%
営業利益	846	635	△210	△24.9%	517	+118	+22.8%
営業利益率	24.0%	18.6%	△5.4pt	-	16.6%	+2.0pt	-
経常利益	882	1,130	+247	+28.1%	179	+951	+530.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	564	724	+160	+28.4%	180	+544	+302.6%
為替レート (期中平均)	132.40円/\$	148.62円/\$			147.86円/\$		

営業利益(1Q) の増減要因 (前年同期比)

売上減少に加えて、製品在庫減少の影響もあり、減益

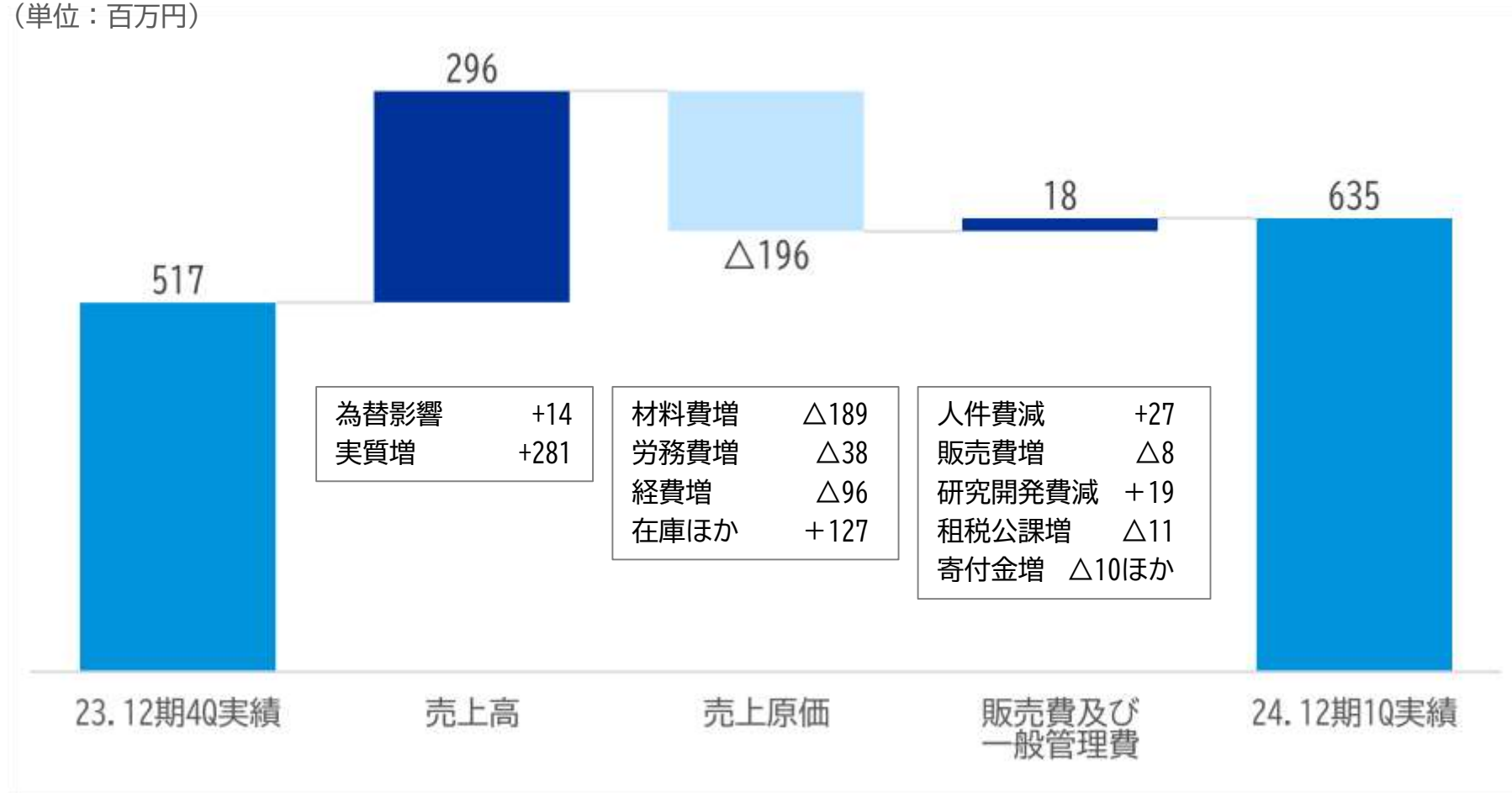
(単位：百万円)



営業利益(1Q) の増減要因 (前四半期比)

リード端子、光部品・デバイス共に売上が回復傾向となり、収益が改善

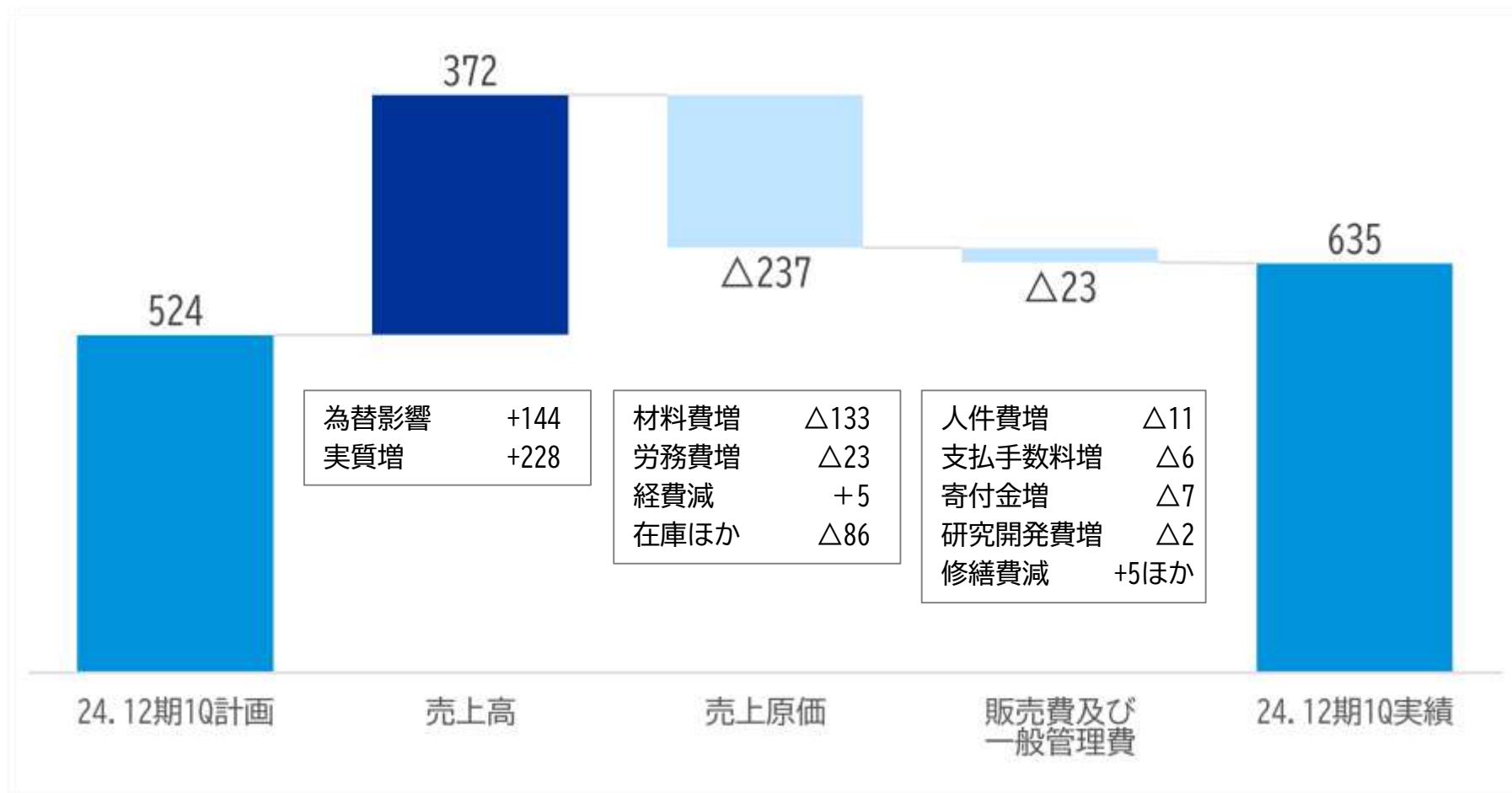
(単位：百万円)



営業利益(1Q) の増減要因 (計画比)

売上・利益ともに計画より上振れで着地

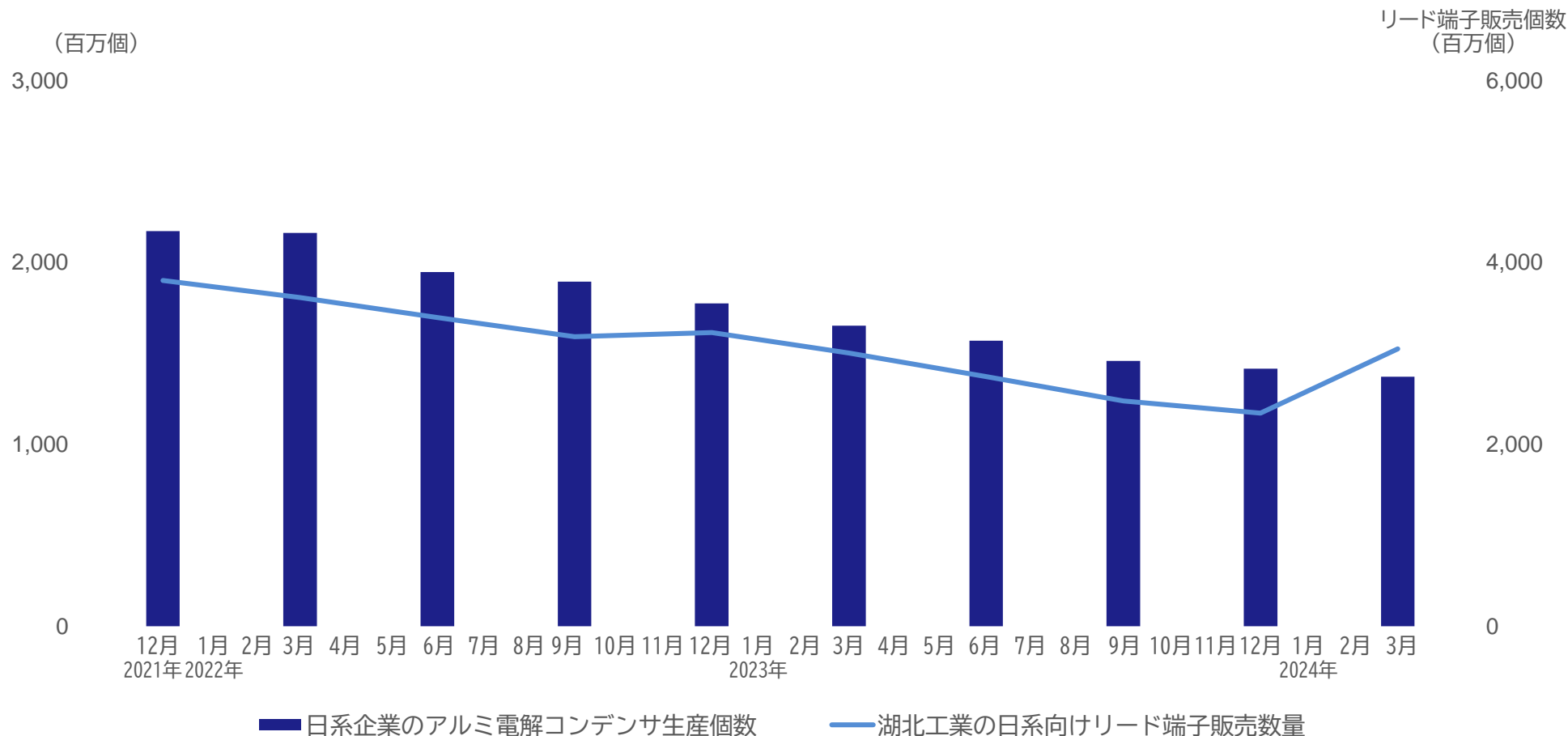
(百万円)



2024年12月期(1Q)の事業環境

日系企業のアルミ電解コンデンサの生産個数は、一昨年夏からの調整が長引く

小型アルミ電解コンデンサ 市場生産推移（日系）（海外生産分を含む）



※数字は各月単月の数字

(出所：湖北工業調べ)

貸借対照表(1Q)

(単位：百万円)

貸借対照表	23.12期末	24.12期1Q末	増減額	備考
流動資産	16,735	16,759	+24	現金及び預金 $\Delta 382$ 受取手形及び売掛金 +283 ほか
固定資産	8,237	8,668	+430	機械装置及び運搬具 +145 ほか
資産合計	24,973	25,427	+454	
流動負債	2,522	2,504	$\Delta 18$	未払法人税等 +77 短期借入金 $\Delta 196$ ほか
固定負債	2,391	2,341	$\Delta 49$	長期借入金 $\Delta 127$ リース債務 +54 ほか
負債合計	4,913	4,845	$\Delta 68$	
純資産合計	20,059	20,581	+522	利益剰余金 +185 為替換算調整勘定 +336 ほか
負債・純資産合計	24,973	25,427	+454	

2024年12月期業績の見通し（現時点の進捗状況）

リード端子事業、光部品・デバイス事業ともに売上は期初の想定を若干上回って推移 (単位：百万円)

＜為替感応度＞ 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2023年12月期	2024年12月期（計画）				
	実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前期増減	前期比
売上高	13,472	6,800	7,736	14,536	+1,063	+7.9%
リード端子事業	7,400	3,701	4,166	7,868	+467	+6.3%
光部品・デバイス事業	6,071	3,098	3,569	6,667	+596	+9.8%
営業利益	2,812	1,427	1,816	3,243	+431	+15.3%
営業利益率	20.9%	20.9%	23.4%	22.3%	+1.4pt	—
リード端子事業	44	47	210	257	+212	+473.5%
光部品・デバイス事業	2,767	1,379	1,606	2,986	+218	+7.9%
経常利益	3,152	1,444	1,840	3,284	+132	+4.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,904	913	1,223	2,136	+232	+11.2%
1株当たり当期純利益（円）	211.64	33.84*	45.33*	79.17*	*1：3の分割考慮後	
為替レート（期中平均）	140.66円/\$	140.00円/\$	140.00円/\$	140.00円/\$		

● 現時点の状況

- ・リード端子事業：市場の低迷は続いたが、期初の想定より少し良化。一部品種の受注急増により想定外の固定費上昇。損益にマイナスの影響を与えた
- ・光部品・デバイス事業：一部顧客から、想定以上に受注が回復。売上は増加

※＜為替感応度＞は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値

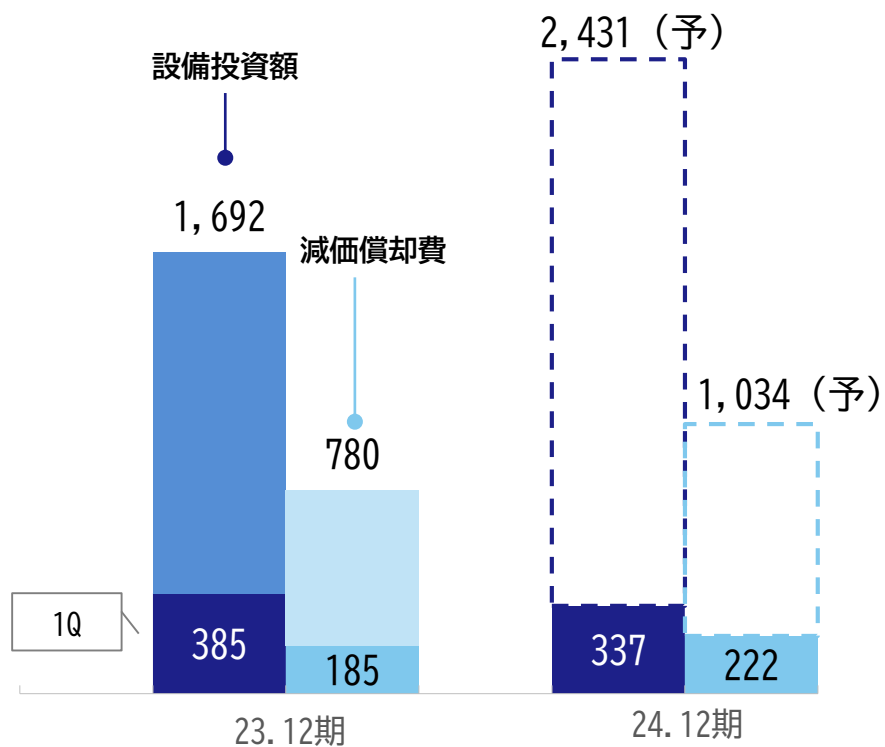
設備投資・減価償却・研究開発(1Q)

設備投資は、光部品・デバイス事業部門の投資計画からの後ズレにより、期初計画より少なめの進捗
研究開発費はほぼ期初計画どおりの進捗

設備投資・減価償却費 (百万円)

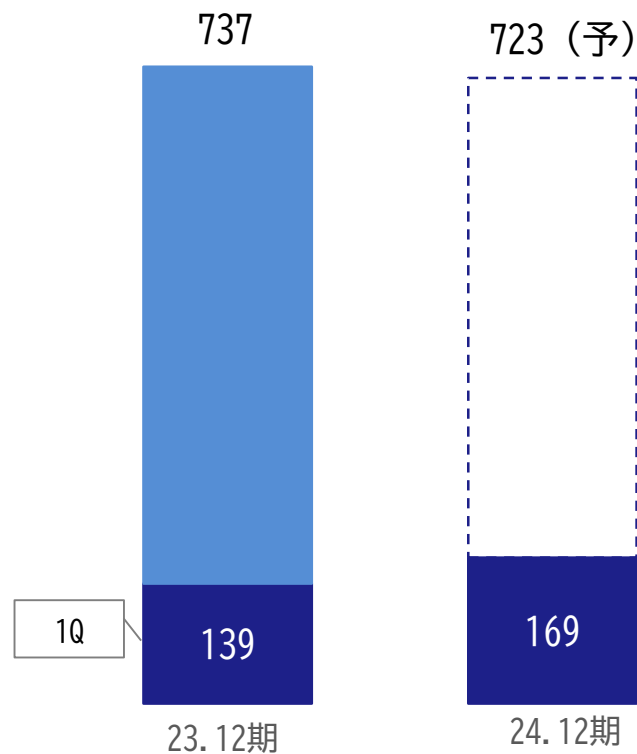
設備投資額
■ 4Q実績
■ 1Q実績

減価償却費
■ 4Q実績
■ 1Q実績



研究開発費 (百万円)

■ 4Q実績
■ 1Q実績



Ⅱ. 2024年12月期1Q セグメント別の状況

セグメント別業績(1Q) - リード端子

自動車向けの一部品種の受注急増もあり、前年同期比3.5%増収（前四半期比では6.0%増収）

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期			2023年12月期	2024年12月期		
	1Q (1月-3月)	1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比	4Q (10月-12月)	1Q (1月-3月)	対前四半期 増減	前四半期比
売上高	1,864	1,929	+64	+3.5%	1,819	1,929	+109	+6.0%
営業利益	28	△13	△42	-	△16	△13	+3.0	-
営業利益率	1.5%	△0.7%	△2.2pt	-	△0.9%	△0.7%	+0.2pt	-

2024年12月期（1Q）の概況

● 厳しい事業環境が続くが、一部に回復傾向

- 自動車用エレクトロニクス市場では、一部の品種が回復傾向を示すなど、在庫調整の進展に伴う下げ止まりの兆候
- PCをはじめとする情報通信機器市場などは、厳しい状況が続く

● 当社の状況と収益改善への取り組み

- 小口受注の見直しや設備総合効率の改善
- 製品の品質と信頼性の向上や生産効率の改善に向けた、高効率・高精度を実現する新しい溶接技術の開発

2024年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

1. お客様、市場調査会社等からの情報に基づく当社の認識

	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期1Qの状況	2024/12期2Q以降の見通し
(1) アルミ電解コンデンサ市場全体 （主に日系顧客の状況）	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 在庫調整は春までに終了し、その後回復の見通し ➢ 自動車市場は引き続きEVの普及を見込むが中国他景気後退懸念により緩やかな回復を予想 ➢ 情報通信機器、民生市場向けは在庫調整からの回復を見込むが、需要は低迷が続く予想 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 在庫調整は、ほぼ終了し受注は反転 ➢ 自動車市場向けは回復の兆候があるも、マクロ要因により市場全体の回復は鈍い ➢ 在庫調整は終了したと見られるが、市場は低迷継続、回復の兆しは見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 市場は底を打ったが、当面回復力は弱い状況が継続と予測 ➢ 本格回復は、9月以降との見方 ➢ 中国スマホ、スマートメータ等向けに回復の兆しだが、マクロ要因により全体としては弱い状態が続く
(2) 用途別の動向	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自動車用はハイブリッドコンデンサ向けリード端子の売上は前年比3倍を見込む ➢ 自動車市場、期初時点で在庫調整はほぼ終了。春以降の回復を見込む ➢ ICT市場、生成AI市場の牽引などにより、年後半、回復に向かう見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ハイブリッドコンデンサ向けリード端子市場は一進一退 ➢ 自動車関連は、品質不正問題、EV市場の成長鈍化により想定より回復が弱い ➢ 生成AIの進化の影響は、現段階では見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2Qについても大きな上昇は見込めない。夏以降の成長に期待 ➢ EV市場の鈍化懸念はあるが、自動車市場向けは徐々に回復すると予想 ➢ 情報通信機器市場全体の低迷継続、回復は期待できない

2024年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

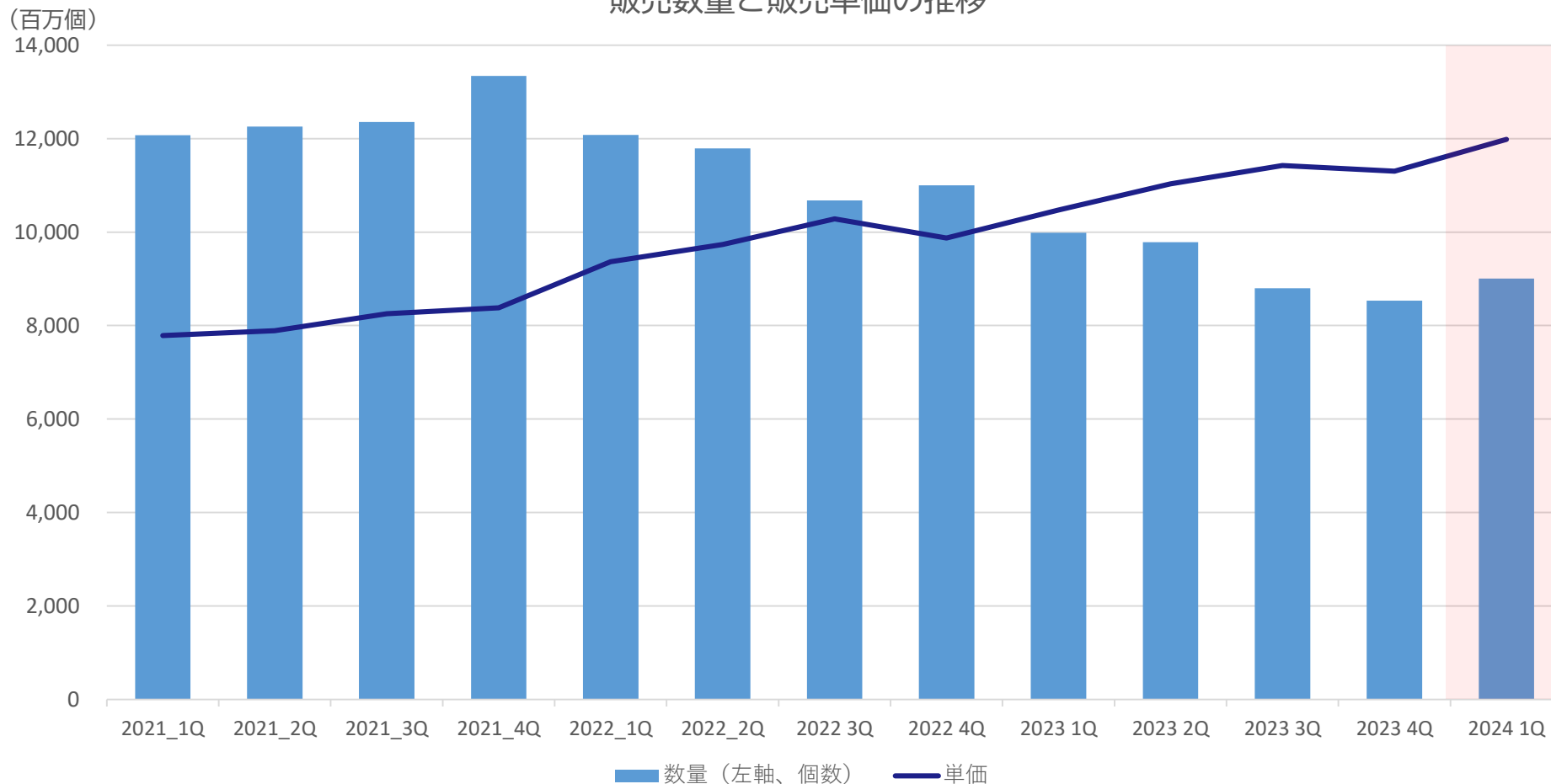
2. 当社の経営環境

	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期1Qの状況	2024/12期2Q以降の見通し
(1) 生産	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 蘇州、東莞、マレーシア各拠点での生産効率改善による収益力強化、品質改善を進める ➢ OEE 85%目標 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 蘇州工場で在庫と受注のミスマッチが発生、在庫減少により収益に悪影響 ➢ 各拠点において、生産効率改善が徐々に進行、一部ラインでは目標達成 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 各拠点での設備・金型の配置を改善、ミスマッチを回避、需要増加を背景に在庫積み増し ➢ 全生産拠点でのOEE 85%達成を目指す
(2) 売上	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 高機能コンデンサ向けリード端子の売上予想 (億円) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ EDLC向け売上は大幅増加。中国スマートメータ、車載ブレーキシステム向けなどに採用拡大 ➢ 1Q時点での新製品比率は15.7%、EDLC向等が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ EDLC向けは売上成長が継続と予想 ➢ 2Q以降、さらなる拡販をはかる
(3) 技術	<ul style="list-style-type: none"> ➢ OEE 85%目標 ➢ レーザー溶接製品サンプル出荷開始 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 継続開発中 Ariel社のレーザー技術によるレーザー溶接機（試作機）を評価中 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 量産用レーザー溶接機の開発・テスト ➢ 2024年度中にサンプル出荷目標

販売数量、販売単価の動向

市場の調整はようやく底入れ、緩やかな回復局面に入ったと推定

販売数量と販売単価の推移

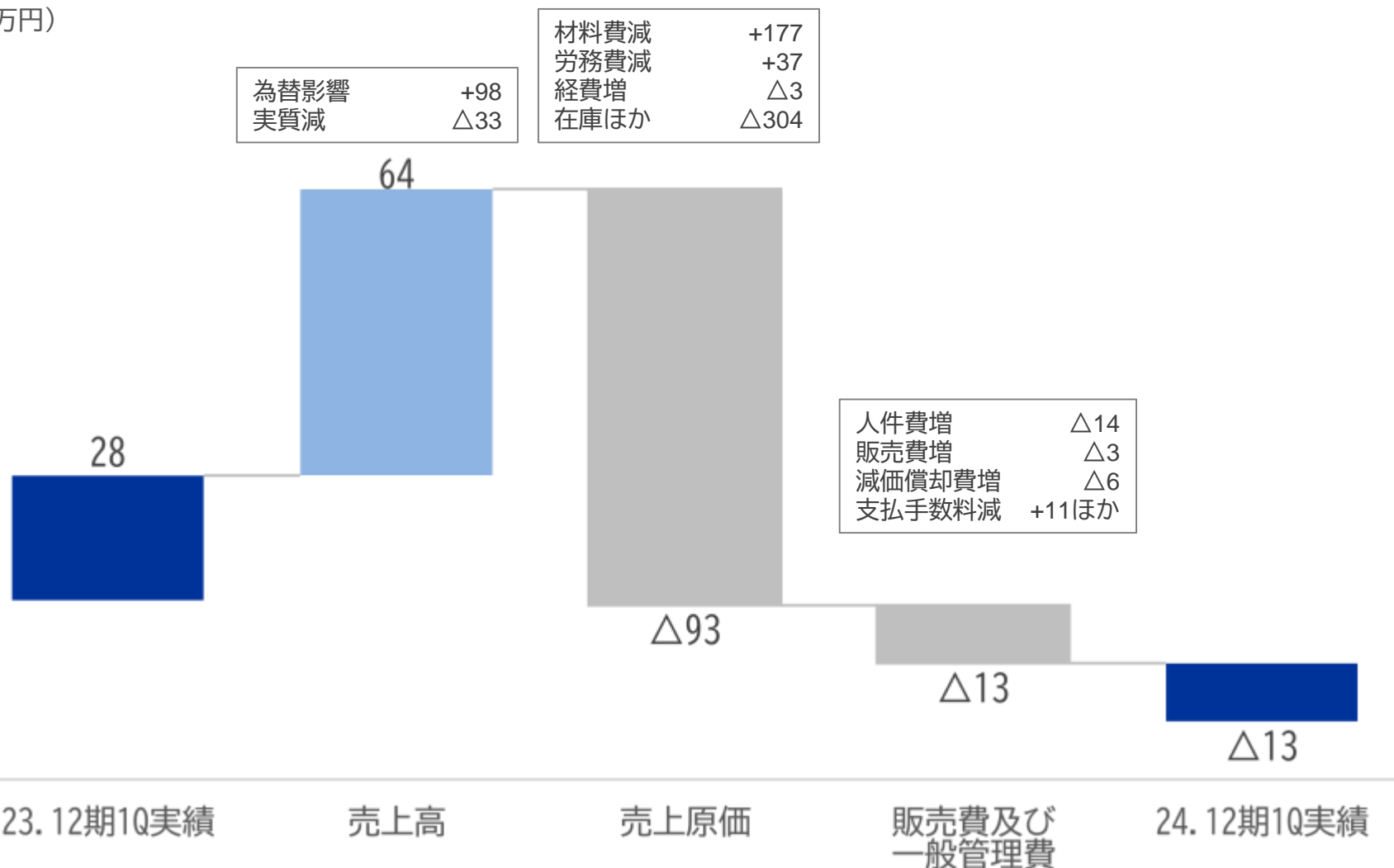


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (前年同期比) - リード端子

前年同期比では売上・利益ともに厳しい状況が継続

(百万円)

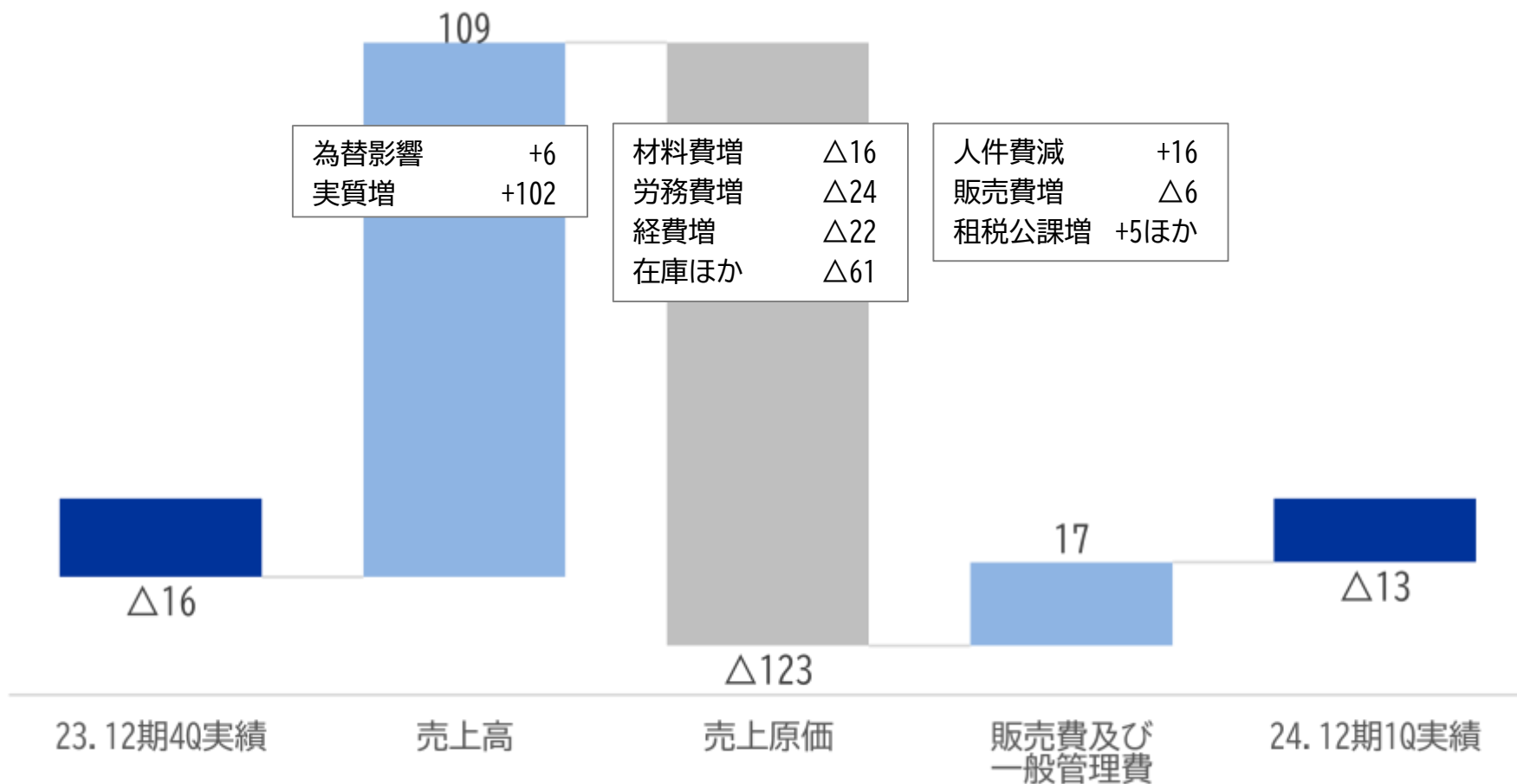


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (前四半期比) - リード端子

売上が増加したが、固定費増加と在庫変動の影響を受けた

(百万円)

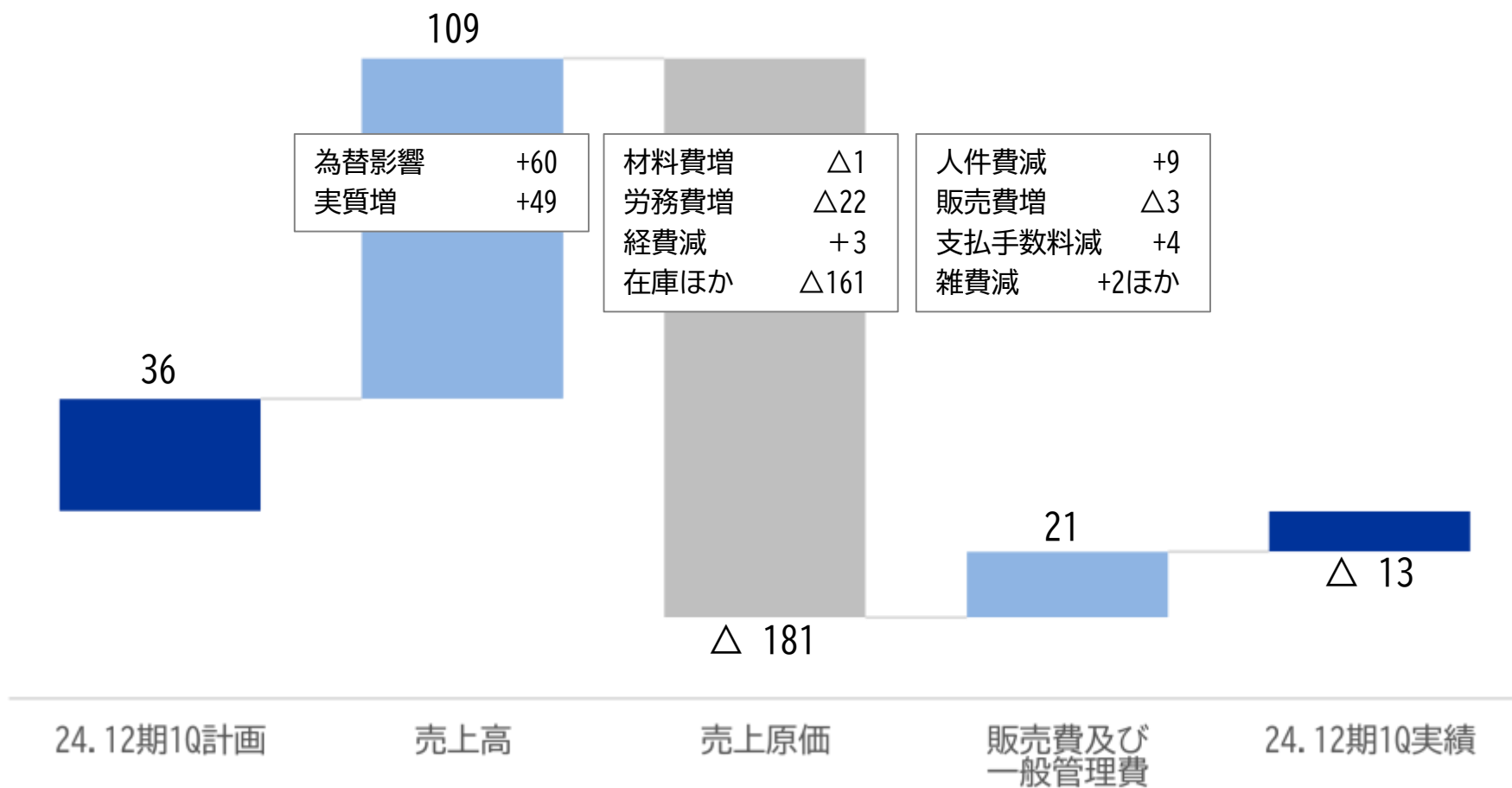


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (計画比) - リード端子

売上が上振れしたが、在庫減少の影響により、黒字化ならず

(百万円)



リード端子事業の見通し

市場回復とプロダクトミクス改善により、下期の収益は回復する見通し

セグメント業績

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期（計画）				対前期増減	前期比
	実績	上期予想	下期予想	通期予想			
売上高	7,400	3,701	4,166	7,868	+467	+6.3%	
営業利益	44	47	210	257	+212	+473.5%	
営業利益率	0.6%	1.3%	5.0%	3.3%	+2.6pt	—	

2024年12月期1Qの状況及び現時点での見通し

- 期初計画に対して売上は若干上振れだが、市場の回復力は弱い状況が継続
- 用途別では、自動車向けを中心に売上は若干のプラス

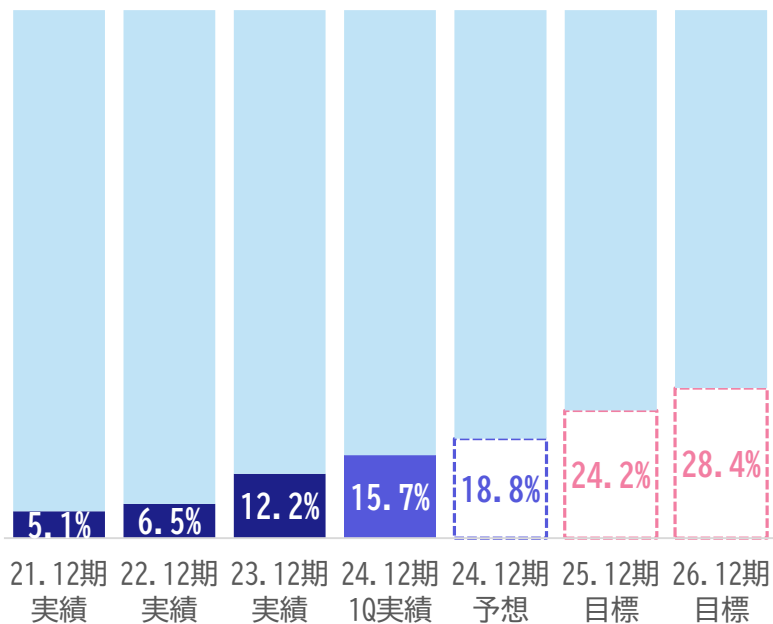
市場開拓による事業規模の拡大

新商品の売上比率の改善、自動車市場向け販売を強化

新商品の売上比率

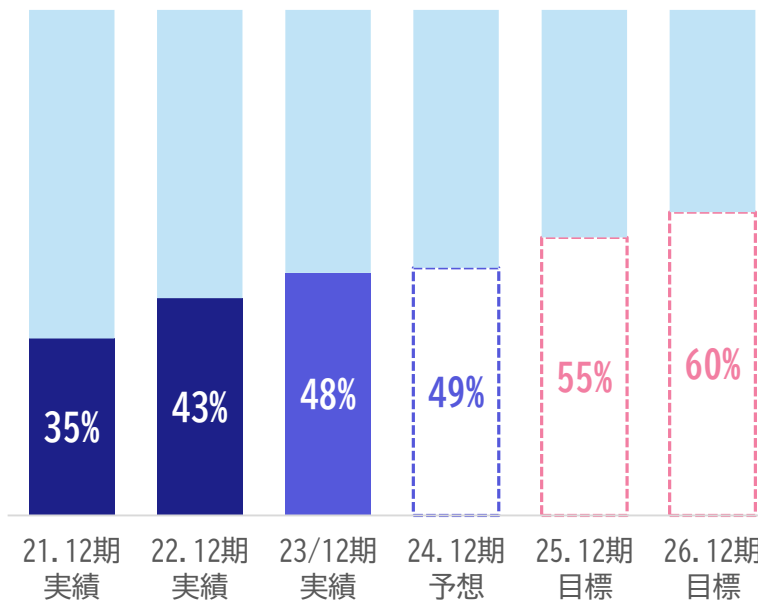


- ・新商品売上比率が徐々に上昇
- ・EDLC向けは大幅売上増



自動車市場向け売上比率（推定値）

- ・車載市場向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場での拡販を進める



セグメント別業績(1Q) - 光部品・デバイス

売上は前年同期比10.4%の減収だが、前四半期比では14.4%の増収となり、回復傾向

(単位：百万円)

	2023年12月期		2024年12月期		2023年12月期		2024年12月期	
	1Q (1月-3月)	1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比	4Q (10月-12月)	1Q (1月-3月)	対前四半期 増減	前四半期比
売上高	1,656	1,484	△172	△10.4%	1,297	1,484	+187	+14.4%
営業利益	817	649	△168	△20.6%	534	649	+115	+21.5%
営業利益率	49.3%	43.7%	△5.6pt	-	41.2%	43.7%	2.5pt	-

2024年12月期1Qの概況

● 業界・市場動向

- 光デバイス製品では、在庫調整や海底ケーブルプロジェクトの延期などが一段落した模様。一部前倒し受注が発生
- 世界的な通信インフラの中長期的な強化の流れを背景としたプロジェクトが発表されるなど、受注が回復傾向
- 陸上用光ファイバレイ製品では、中国市場向けの需要の低迷等により、厳しい状況が続く

● 外部環境の変化とその対応

- 情報通信の拡大ニーズに対応し、小型や複合製品、マルチコアファイバ用製品の開発を進める
- マルチコアファイバ用製品では、光アイソレータ機能を内蔵したファンイン／ファンアウト製品を開発
- 高純度石英ガラス事業については、昨年発売した紫外線用非球面レンズの販売が増加。また高純度石英ガラスSSG®の特徴である自由度の高い形状の製品サンプルを量産採用に向けて半導体装置メーカー向けに順次出荷

市場環境・経営環境について - 光部品・デバイス事業

1. 市場環境、受注動向

	24年12月期当初 (2月時点) コメント	2024/12期1Qの状況	2024/12期2Q以降の見通し
(1)市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 光アイソレータは堅調が続く見通し ➢ 光フィルタは年央から回復の見通し ➢ 後半は、長期視点の海底ケーブルプロジェクトによる回復を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海底ケーブル用デバイス受注、光アイソレータの売上堅調に加えて、光フィルタも改善傾向 ➢ 長距離プロジェクト公表により受注は回復傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 光アイソレータ、光フィルタともに売上増加の見通し ➢ 当面は堅調な受注を見込む

2. 当社の経営環境

	24年12月期当初 (2月時点) コメント	2024/12期1Qの状況	2024/12期2Q以降の見通し
(1)製品開発	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 複合デバイス新製品。24年後半に量産サンプル出荷。25年売上貢献に期待 ➢ 従来のシーズ開発から次世代技術やプラットフォーム開発に移行 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ スケジュール通り、開発進行中 ➢ マルチコアファイバ用光デバイスのサンプル出荷を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2Qデザインレビュー完成 ➢ 顧客の評価をフィードバックしながら開発を進める
(2)生産性他	<ul style="list-style-type: none"> ➢ スリランカでの半自動生産装置を増設、生産能力増強 	—	<ul style="list-style-type: none"> ➢ スリランカ工場での半自動装置を増設、生産可能アイテムを拡大

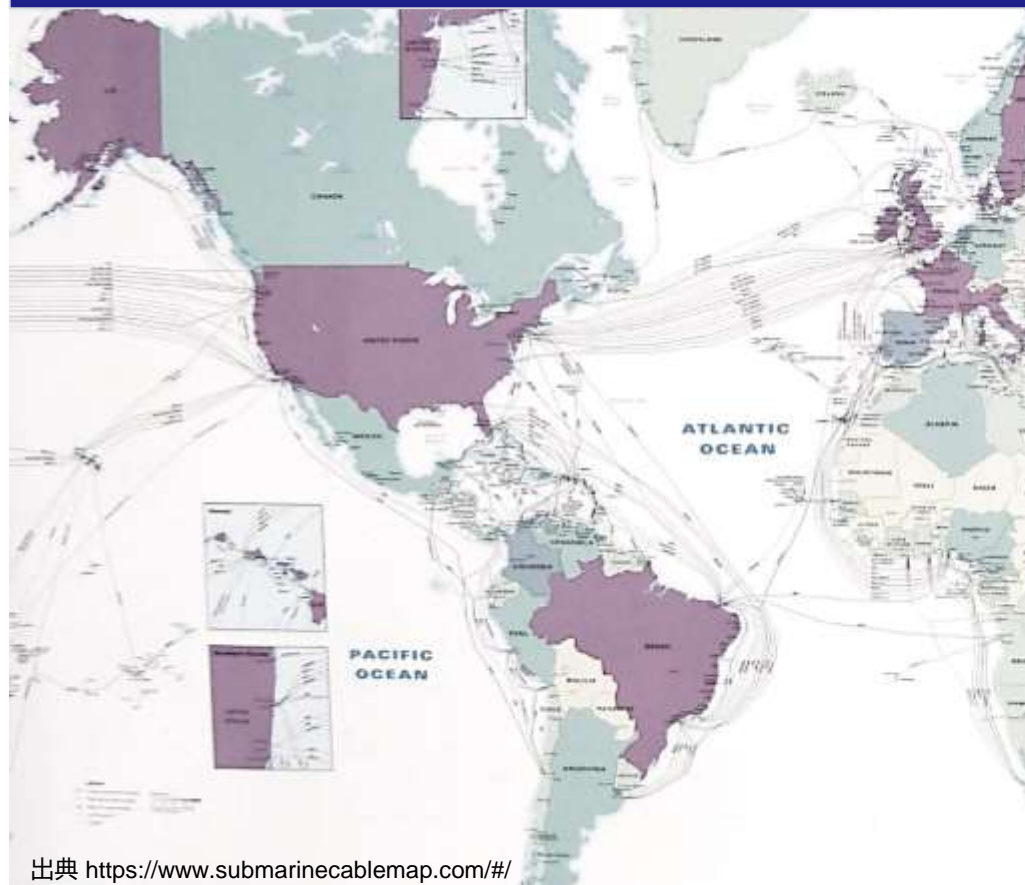
2024年以降も新規敷設が続く海底ケーブルネットワーク

通信キャリア、GAFAMに加え、データセンターからの長距離プロジェクトが今後増加の見通し

* 図中の各線が海底ケーブル

長距離海底ケーブルシステムの全体図

2024年4月現在



2022～2024年1月公表のプロジェクト

プロジェクト名	サービス開始	オーナー	距離
SeaMeWe-6	2025年	Microsoft等 15社	21,700 km
Asia Connect Cable-1 (ACC-1)	2025年	Inligo Networks	19,000 km ★
JUNO	2024年	Seren Juno Network Co., Ltd.	11,710 km
Medusa Submarine Cable System	2024年	AFRIX Telecom	8,760 km
Asia Link Cable (ALC)	2025年	China Telecom等 5社	7,200 km
SEA-H2X	2024年	China Mobile等 4社	5,000 km
Hawaiki Nui	2026年	Hawaiki Submarine Cable LP	25,000 km ★
Echo	2025年	Google, Meta	17,184 km ★
TPU	2025年	Google	13,470 km
Anjana	2024年	Meta	7,121 km
TAM-1	2025年	Trans Americas Fiber	7,000 km
Sydney-Melbourne-Adelaide-Perth (SMAP)	2026年	SUBCO	5,000 km

2024年2月以降判明したプロジェクト

Proa	N.A.	Google	N.A.
Taihei	N.A.	Google	N.A.
New CAM Ring	2026年	IP Telecom	3,812 km
Humbldt	N.A.	Google	N.A.
Tabua	N.A.	Google	N.A.

★はサービス開始が延期されたプロジェクト

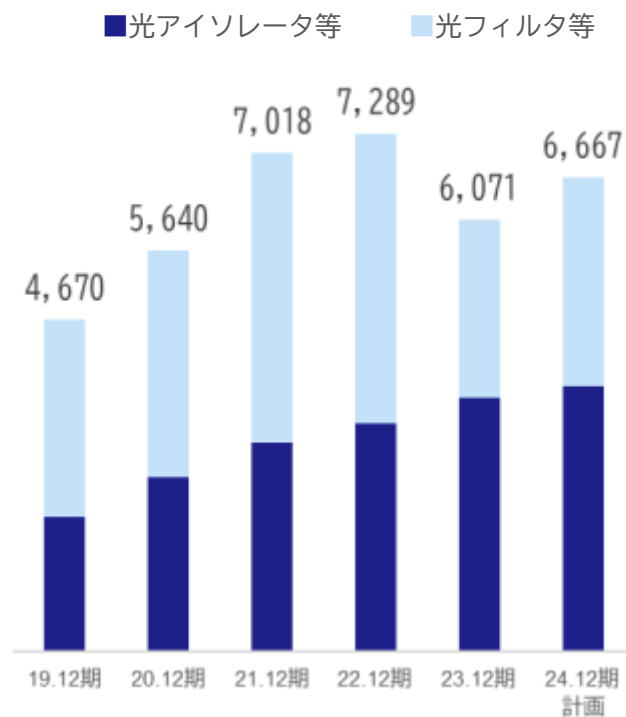
※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

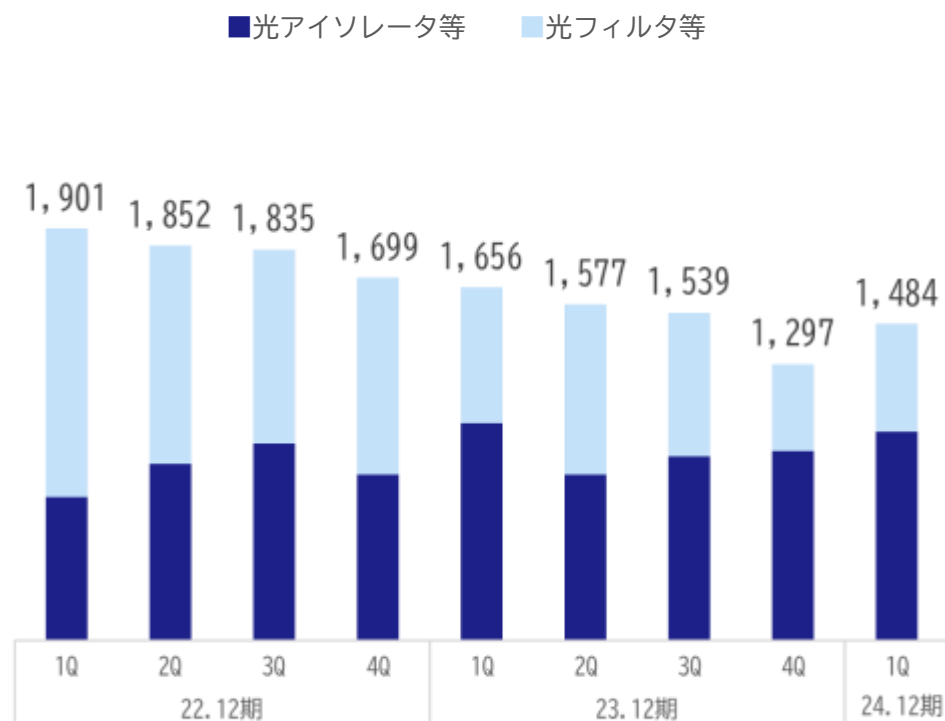
セグメント別 製品別売上推移 - 光部品・デバイス

光フィルタ、光アイソレータともに売り上げが増加、回復基調に

年間売上高（百万円）



四半期売上高（百万円）

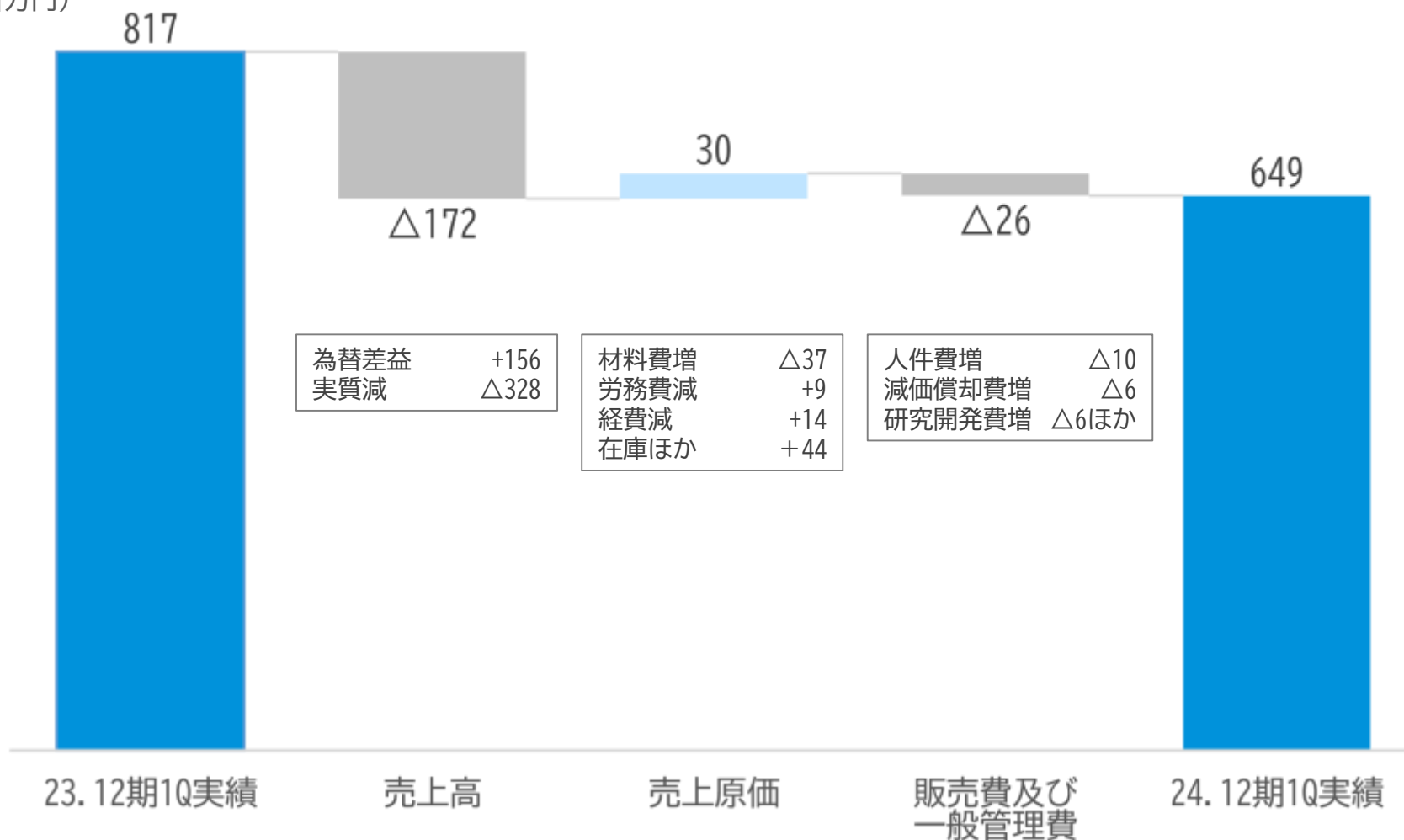


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (前年同期比) - 光部品・デバイス

売上減少にともない、減益

(百万円)

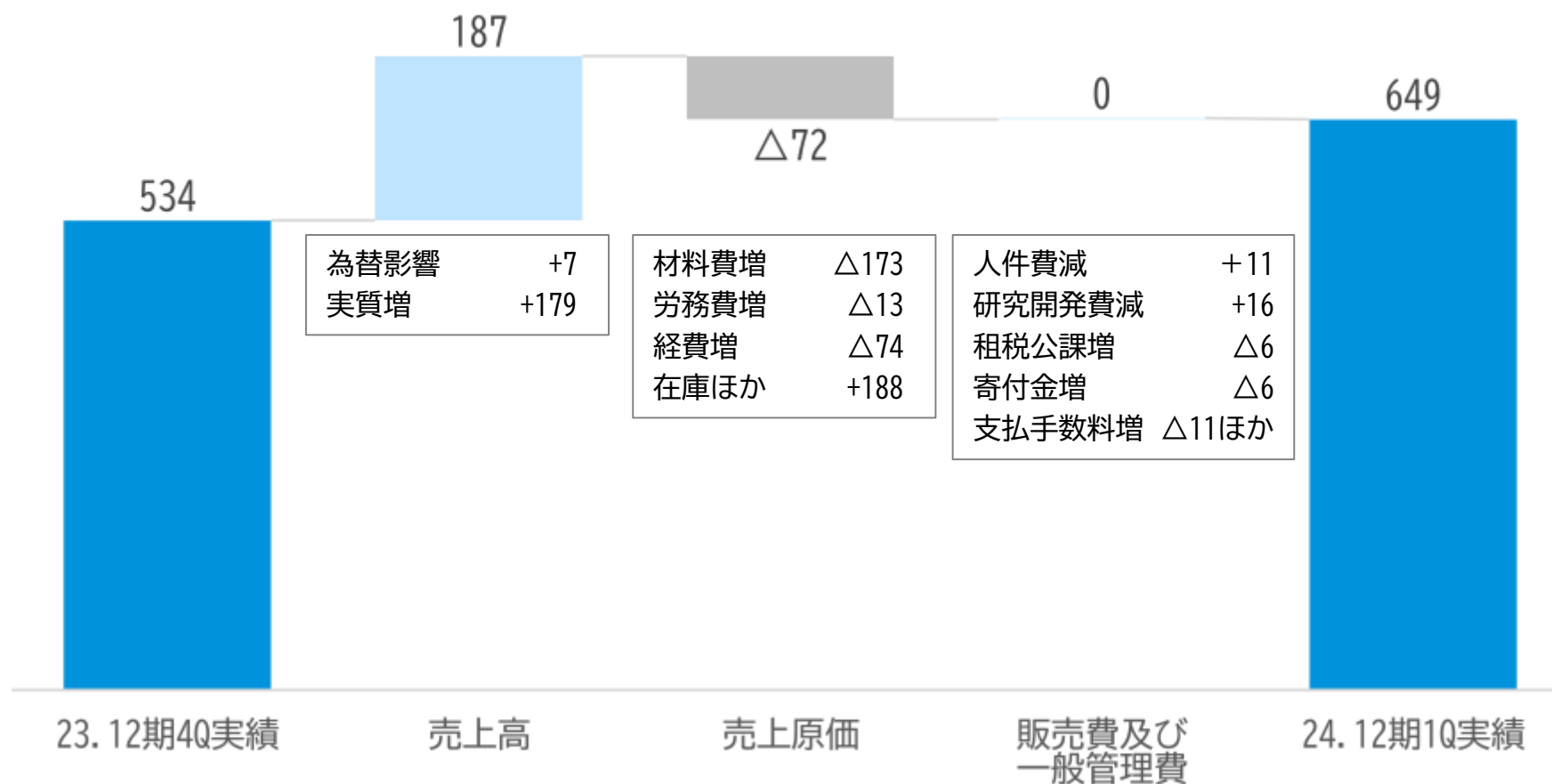


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (前四半期比) - 光部品・デバイス

売上回復に伴い、営業利益は改善

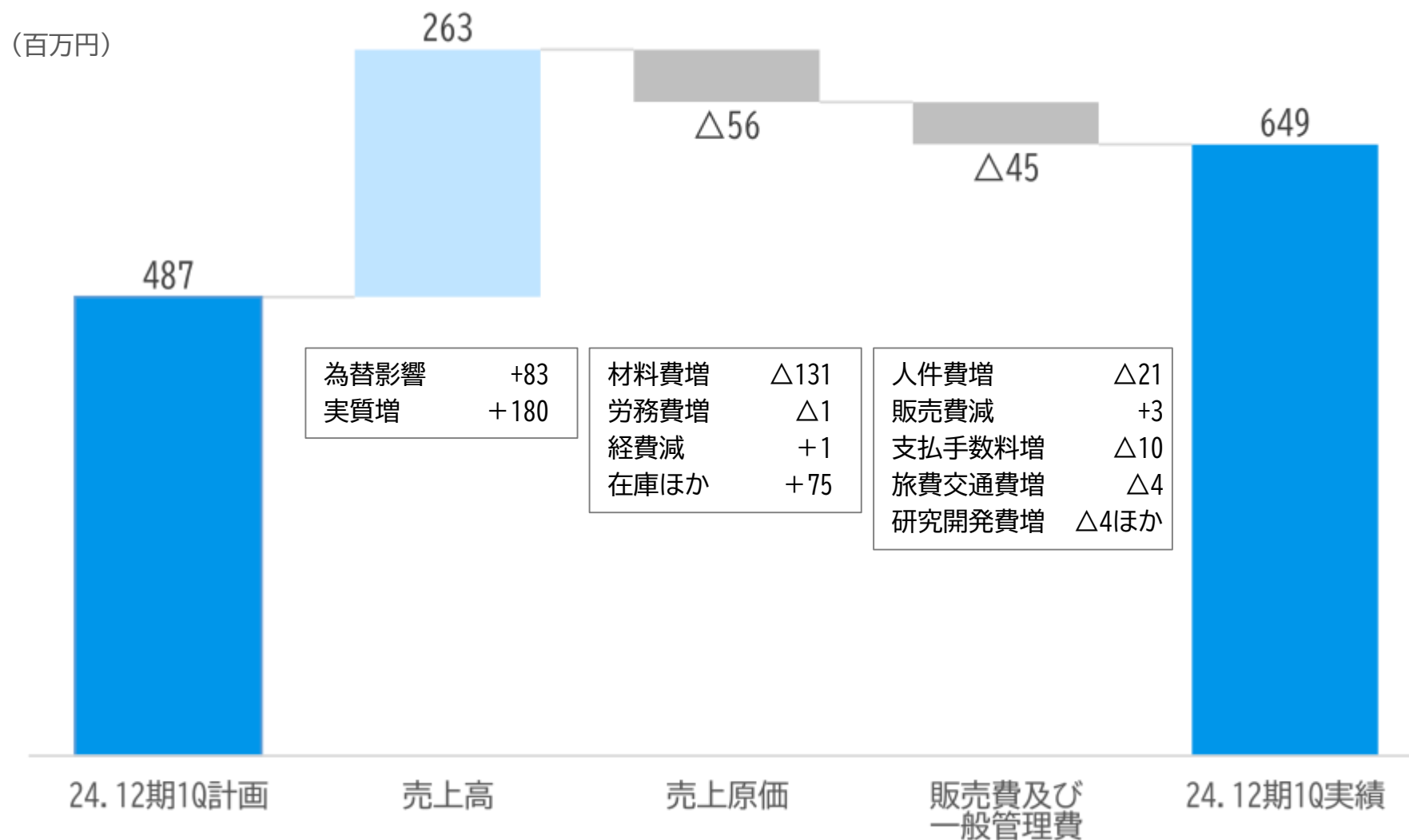
(百万円)



セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (計画比) - 光部品・デバイス

売上の上振れにともない、利益も計画を上回った



光部品・デバイス事業の見通し

生成AIをはじめとする情報通信の拡大を背景に、下期から海底ケーブル市場の回復を見込む

セグメント業績

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期 (計画)				対前期増減	前期比
	実績	上期予想	下期予想	通期予想			
売上高	6,071	3,098	3,569	6,667	+596	+9.8%	
営業利益	2,767	1,379	1,606	2,986	+218	+7.9%	
営業利益率	45.6%	44.5%	45.0%	44.8%	△0.8pt	-	

※百万円未満切り捨て

2024年12月期1Qの状況及び現時点での見通し

- 1Q実績は期初計画に対して売上高が上振れ、計画に対して順調な出だし
- 一部顧客からの前倒しの受注あり、2Q以降も回復を期待
- 陸上用光デバイスも計画比増加だが、低水準の売上高が続く

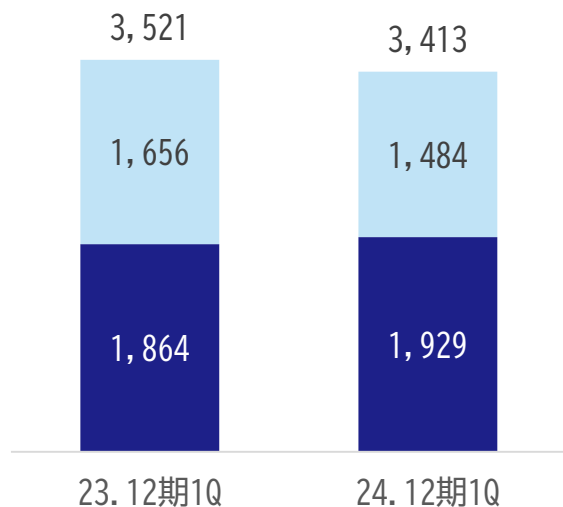
Ⅲ. 参考情報

セグメント別業績及び国内外売上高比率(1Q)

期初計画から変更なし

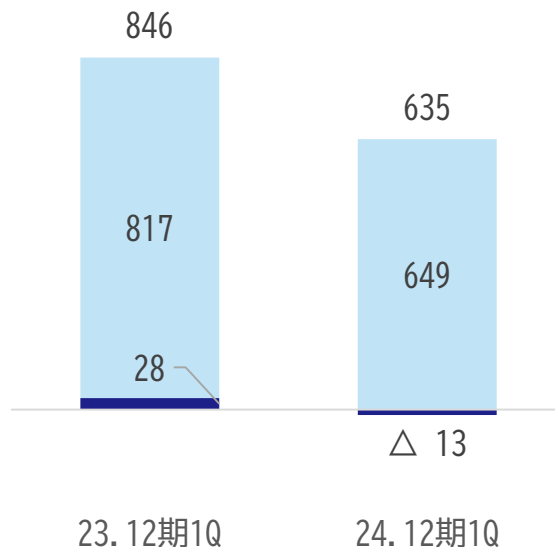
売上高 (百万円)

■ 光部品・デバイス事業
■ リード端子事業



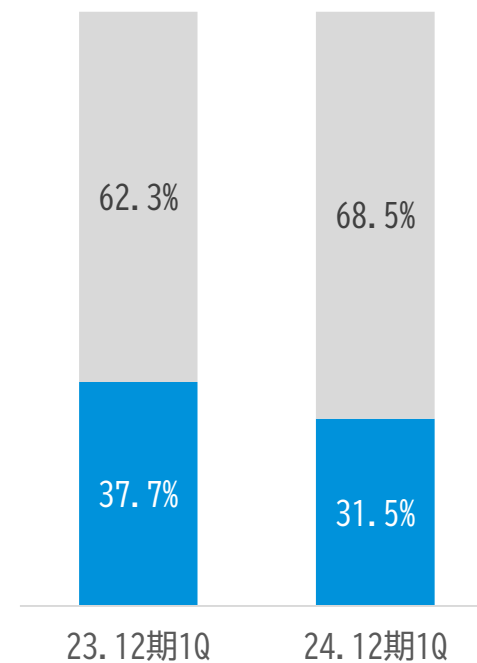
営業利益 (百万円、%)

■ 光部品・デバイス事業
■ リード端子事業



国内外売上高比率

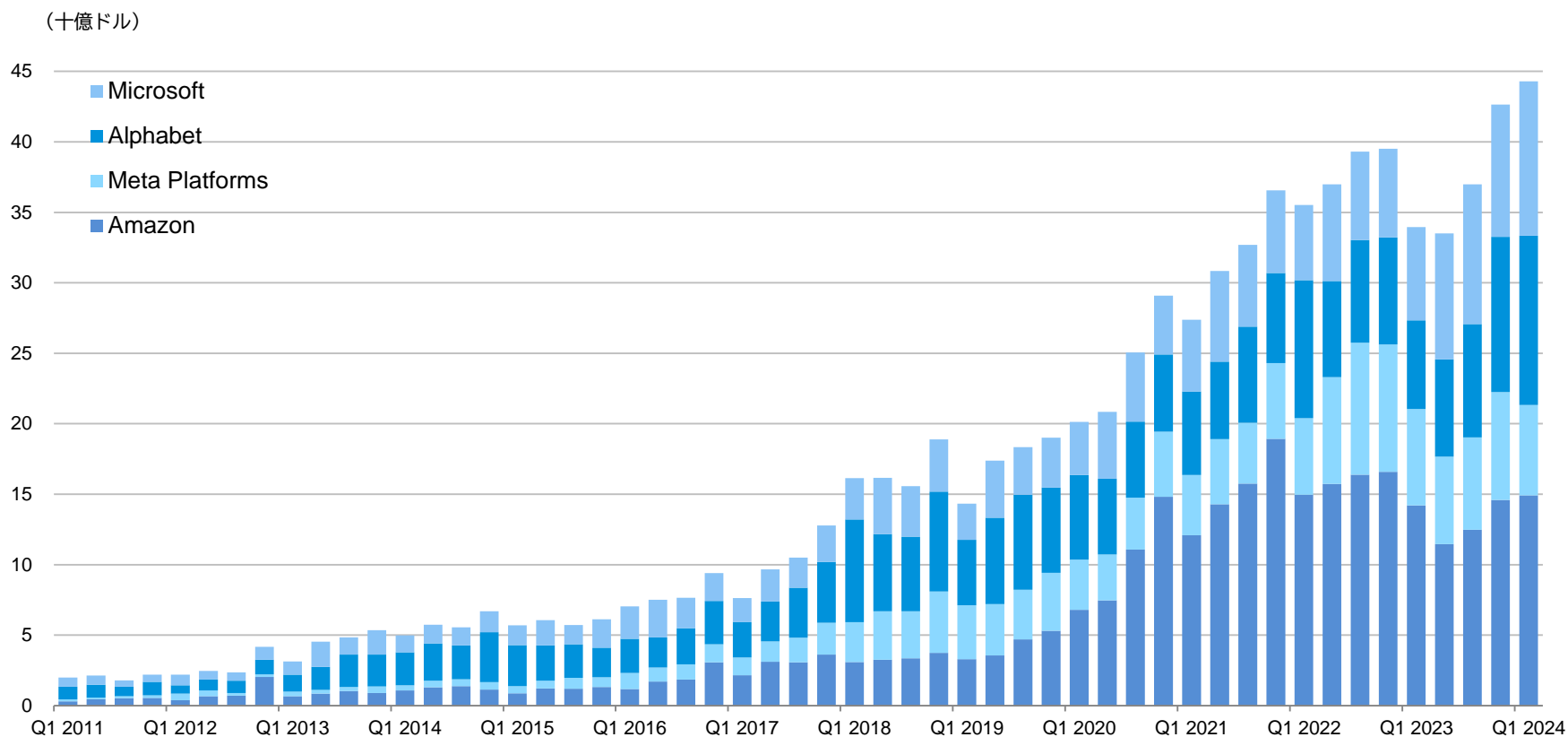
■ 日本 ■ 海外



2024年12月期(1Q)までの事業環境

米国クラウド事業者の設備投資再開

米国クラウド事業者の設備投資

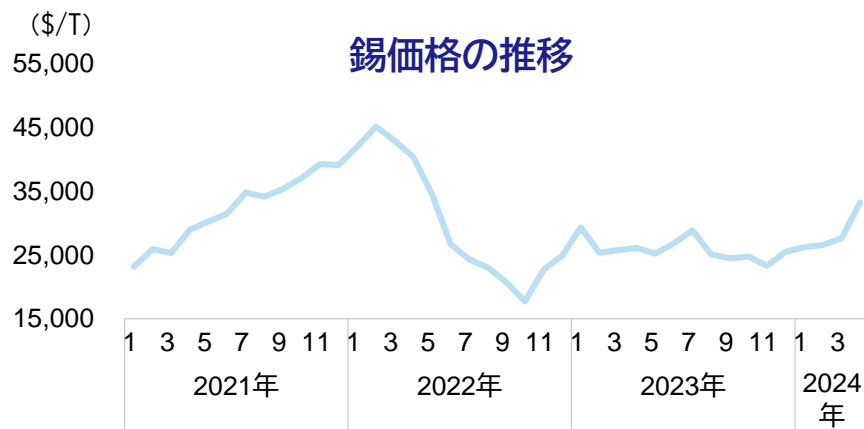
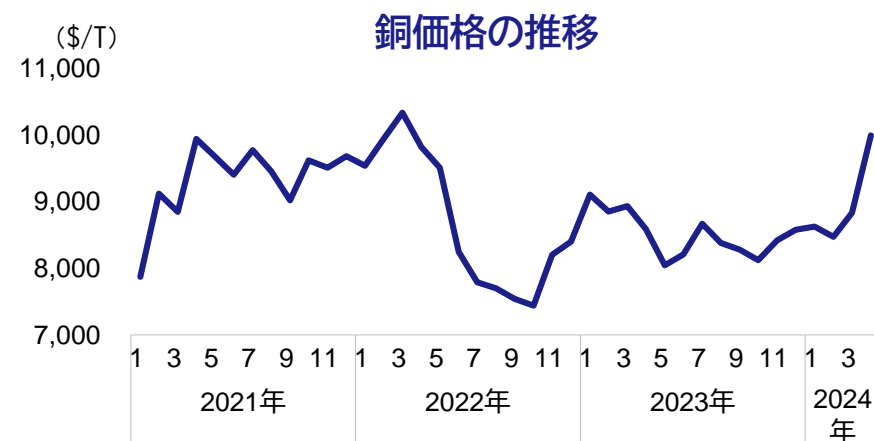
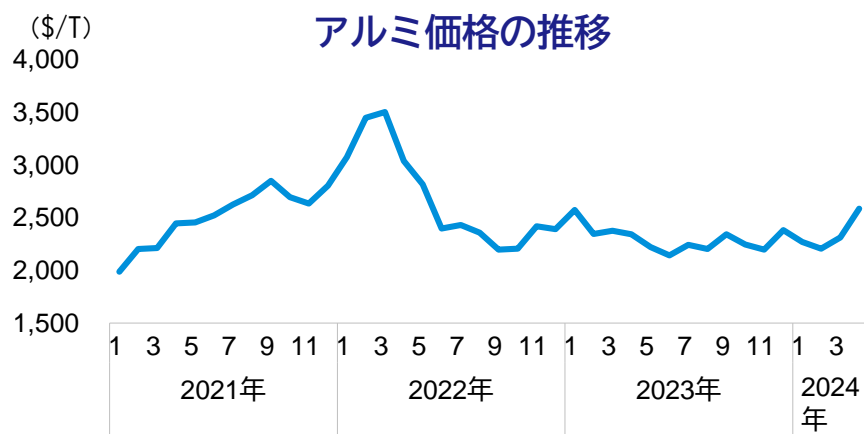


(出所：会社資料)

外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は2022年下落トレンドから反転し、銅、錫はやや上昇基調

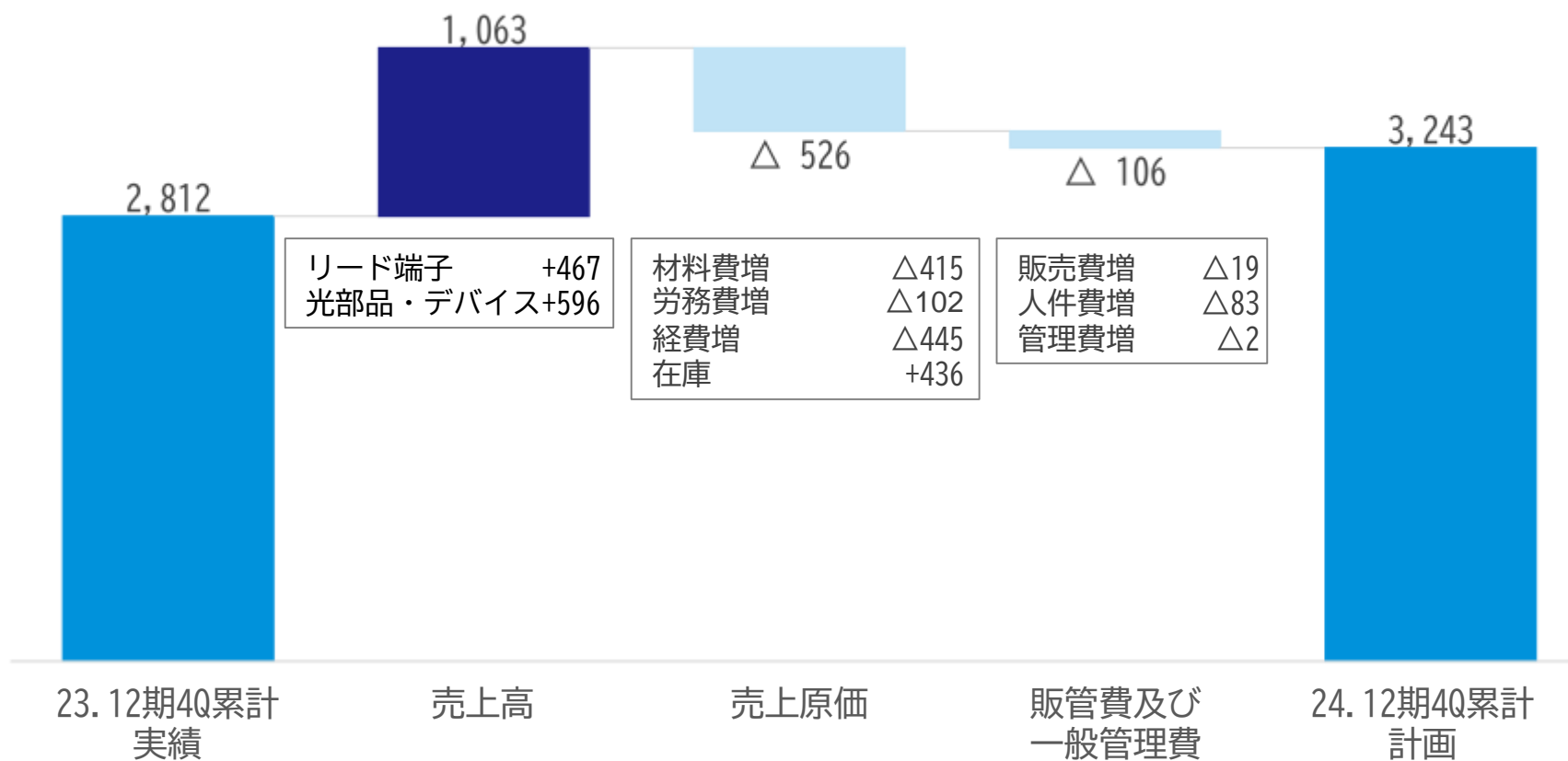
非鉄金属相場（LME）の推移



2024年12月期業績（営業利益）の見通し 期初計画から変更なし

2024年後半におけるリード端子事業の収益回復が貢献し、営業増益の見込み

(単位：百万円)

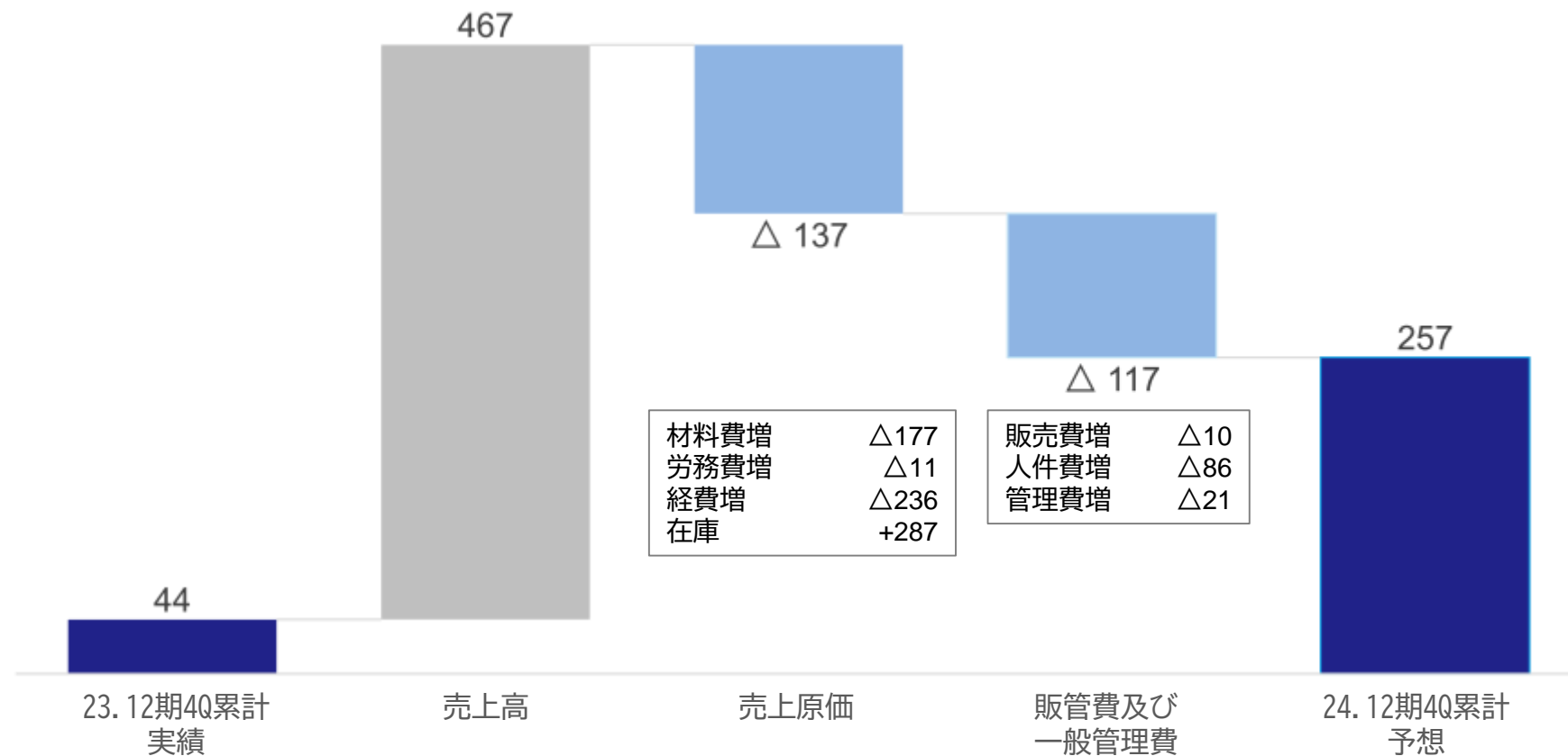


セグメント別営業利益の増減要因（予想） - リード端子

期初計画から変更なし

市場回復と新製品売上拡大により、増収増益を見込む

(単位：百万円)

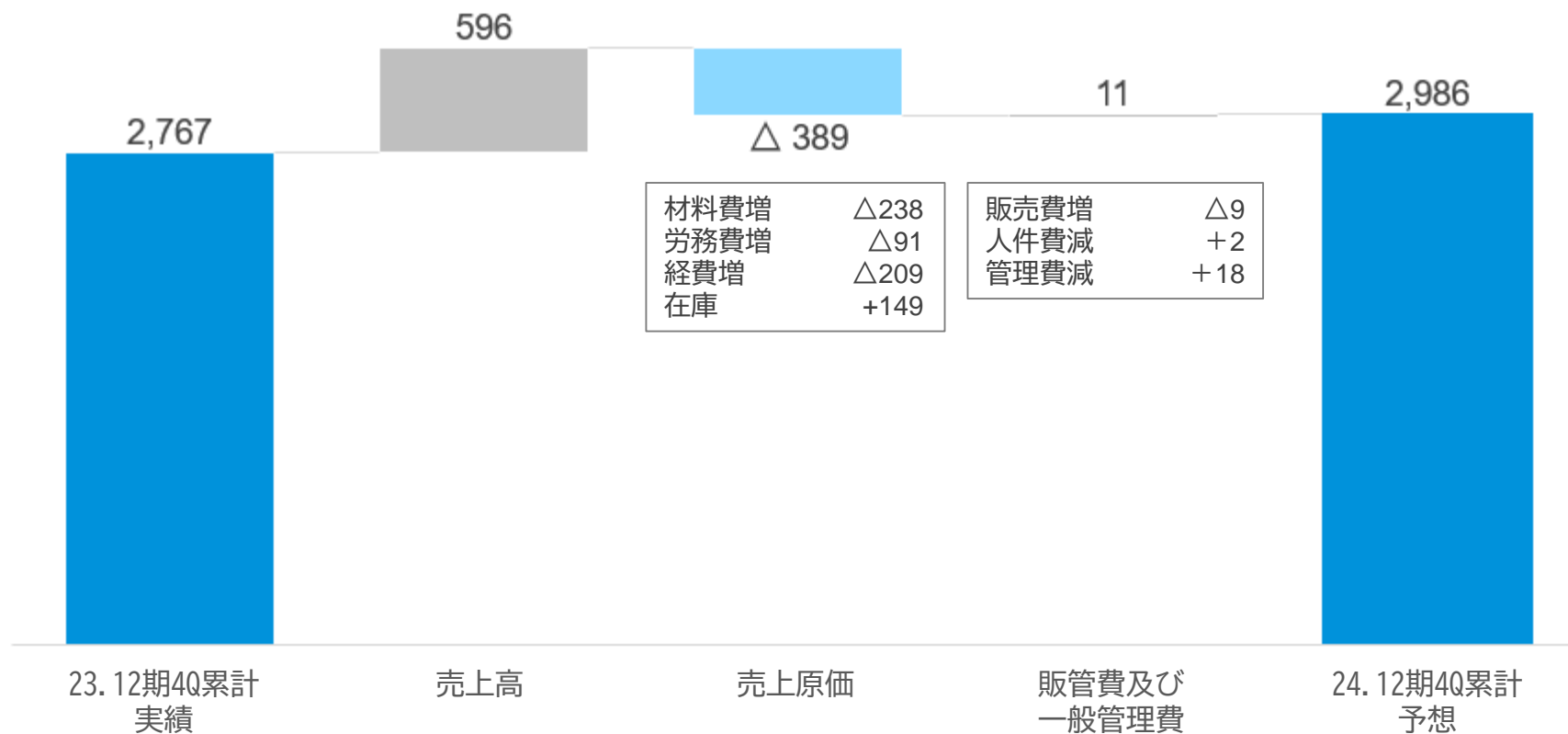


セグメント別営業利益の増減要因（予想） - 光部品・デバイス

期初計画から変更なし

売上が年央より回復、増収増益を確保の予定

(単位：百万円)



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計
画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によ
りこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料は
その実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 広報・IR担当

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217